

みんなで未来の高校のアイデアを考えよう！

しがの高校をリ・デザインする 県民ワークショップ

第2回 開催報告

10月04日（日）
13:30～16:00



しがの高校をリ・デザインする 県民ワークショップ

第2回 開催概要

日 時：2026年10月4日(日) 13:30～16:00

会 場：高島市・今津東コミュニティーセンター

参加者：31名

主 催：滋賀県教育委員会

当日のスケジュール

13:30	開会・教育委員会からの説明 / ワークショップの説明
14:00	第1ラウンド もし来年、高校生なら？ 困りごとを出そう
14:30	第2ラウンド アイデアを広げよう
15:05	第3ラウンド アイデアを束ねよう
15:35	発表・共有
15:55	まとめ



このワークショップについて

滋賀県では、2040年を見据えた高校教育の将来ビジョンの策定を進めています。本ワークショップは、その検討に県民の声を反映させるため、中高生・大学生から保護者、教職員、地域・企業の方まで、さまざまな立場の人が集まり、これからの高校の在り方を対話で考える場として県内6か所で開催します。

参加者

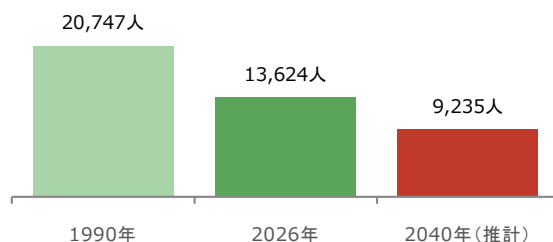
高校生7名、大学生等3名、保護者6名、教育関係者7名

企業・教育事業・NPOなど2名、地域住民・自治会2名、行政・議会4名

2040年を見据えた高等学校教育の在り方について

滋賀県教育委員会から、滋賀県の高校教育を取り巻く課題について説明がありました

1 生徒数の減少



滋賀県の15歳人口（中学校卒業予定者数）は、2026年から2040年までに**約4,389人減（約110クラス分に相当）**の見込み。

- ✓ 生徒数の減少に合わせた学校規模の検討
- ✓ 地域の実情に応じた配置・役割
- ✓ 多様な学びの場の確保

2 学びの多様化と授業料無償化

学習ニーズの多様化

- ・ 生徒の興味・関心や進路希望等に応じた学びの多様化への対応
- ・ 不登校生徒の増加に伴う対応や、外国人生徒等の多様な学びへの対応

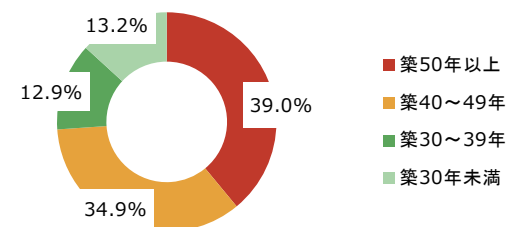
地域とのつながりによる学びの展開

- ・ 地域や企業との交流、地域人材の活用等による高校教育の魅力化
- ・ 地域課題の解決に主体的にかかわる、地域の将来を支える人材の育成
- ・ 地域の小中高の学校段階間の円滑な接続

国による高校授業料無償化の拡大（令和8年度～）

- ・ 公立・私立を問わず経済的負担が軽減
- ・ 県立全日制高校の平均志望倍率が1倍を切る
- ・ 県内私立全日制高校への志望割合が15.9%で過去最高

3 校舎等の老朽化



- ・ 将来的に多くの学校で改築や大規模改修が必要となり、その経費負担が大きな課題に。
- ・ 魅力化の観点から、施設・設備の充実（専門的な学びに対応した設備機器、体育館空調など）も必要。

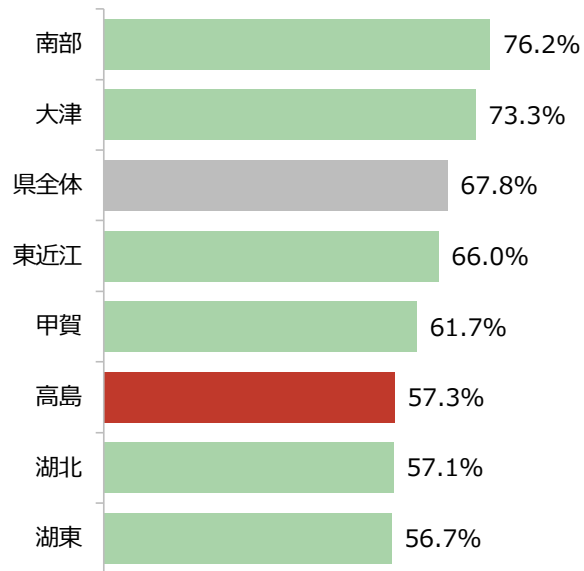
4 課題のまとめ

多様な生徒一人ひとりが「滋賀」という地域から学び、社会の一員としての自立を目指す学校づくりを進めるとともに、時代に合わせた新たな学び、県立高等学校の配置の在り方等を検討し、**生徒、保護者から進学先として選択される、魅力ある高校づくり**を進めていく必要がある。

高島エリアの生徒数と進学先

第2回の開催地である高島エリアについて、生徒数の推計と進学先のデータが示されました

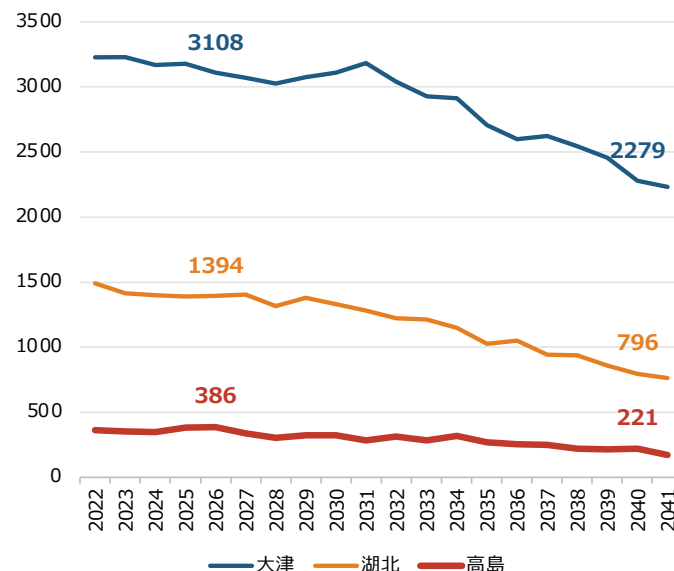
1 2040年の生徒数（2026年比）



※人口推計調査による推計

高島エリアは2026年の386人から2040年に**221人（57.3%）**へ。

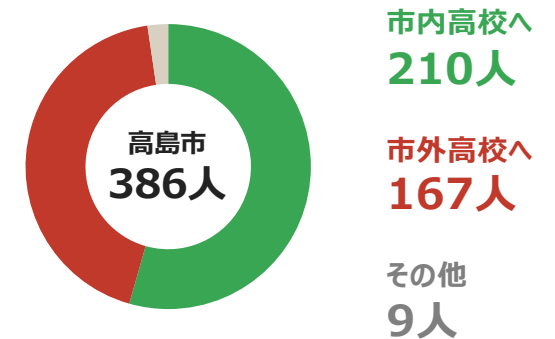
2 高島・大津・湖北の生徒数推計



※人口推計調査による推計

中学校等卒業予定者数。数字は2026年（現在）と2040年。高島は2041年に**172人**まで減る推計です。

3 中学校卒業者の進学先（R8）



市外への進学

大津へ 90人
県外へ 57人
他地域へ 12人
湖北へ 8人

市外からの進学

大津から 31人
湖北から 9人
他地域から 9人

※令和8年3月 県内中学・義務教育学校卒業者における卒業後の進路状況を元に作成

高島市の中学卒業者の**4割以上が市外**の高校に進学。特に大津、県外への進学が多くなっています。

第1ラウンド：もし来年、高校生になるなら？ 困りごとを出そう

通学・部活・放課後・進路など、高校生活の「困りごと」を出し合いました

通学・交通	・湖西線がよく止まる、雨の日の通学が大変 ・電車・バスの本数が少ない、乗り合わせが悪い ・駅から学校まで遠い、送迎がないと行けない ・朝が早い　・通える範囲に高校が少ない ・寮がほしい　・もっと自由に移動したい（原付）	放課後・居場所・遊び	・遊ぶところがない、買い物はどこですか？ ・学校と家の往復だけ、娯楽・余白がない ・コンビニ・食堂・カラオケ・文房具店がほしい ・自習室がない、学校に19時までしかいられない ・学校以外に「自分たち」でいられる場がない
人の少なさ・人間関係	・人が少なくてさみしい、行事が盛り上がらない ・クラス対抗が小規模、部員が少ない ・いろんな中学から来る人と仲良くなれるか ・友達づきあい・人間関係が大変 ・同調圧力やめて　・意見が言えない	施設・校則	・校舎が古い、虫が多い、トイレを洋式に ・体育館にクーラーを！　・体育館が小さい ・空き教室が多くてさびしい、購買を充実させて ・校則が厳しい、制服が暑い・寒い、私服の自由を ・荷物が重い　・毎日のお弁当がめんどくさい
選択肢が少ない	・高校の選択肢が少ない、通信制高校が遠い ・部活の種類が少ない、単独チームで大会に出たい ・普通科の「普通」って何？　・公立か私立か ・文理選択をそんなに早く決められない ・県外や海外の高校に行きたい	授業・先生	・先生の授業の当たりハズレがすごい ・勉強が楽しくない、机にずっと座るのはイヤ ・課題に追われる、勉強・部活・バイトのバランス ・向き合ってくれる先生と出会いたい ・生徒の意見を集めた後、採否の理由を知りたい
進路・将来・情報	・やりたいことが決まっていけないけど、いいのかな？ ・高校選びをミスったら人生終わりそうで怖い ・入る高校で将来が決められている ・進路や編入の情報が早くほしい ・何のために学ぶの？「働く」について知りたい	地域・社会とのつながり	・学校以外の人や色々な大人と出会うきっかけがない ・他校や通信制の高校生とも交流したい ・地域の魅力に触れる機会、企業との接点 ・バイトがしてみたい（どんなルール？） ・やりたいことはあるけど、お金がない

第2ラウンド：困りごとがなくなっている高校って、どんな高校？

困りごとを「〇〇できる高校とは？」という問いに変えて、自由にアイデアを出し合いました

もっと 選べる	・単位制の学校、大学みたいな授業選び ・自分で時間割を考える、好きな時間に好きな授業 ・「学校3：地域2」など学ぶ場を選んで単位に ・興味があれば他の高校の授業も受けられる ・「手に職をつけたい」人向けのコース	食・ にぎわい	・給食・お手頃な学食、地域の食材で学食 ・子ども食堂を高校で、地域のマルシェやお弁当販売 ・キッチンカーや地域の飲食店の日替わりランチ ・駅前にお店を、交通の便がととのっている
通い方・ 交通	・電車の本数を増やし、地域ぐるみで乗る人を増やす ・運休時はバスやタクシー、オンライン授業で ・各高校が連携した送迎バス（自動運転も？） ・半分はリモート・サテライト、2拠点通学 ・地域に寮をつくる・通学費用を無料に	出会い・ 交流	・魅力を持った大人、地域のおもしろい人の話を聞く ・月に何度かOB・OGを呼ぶ、大学生との交流 ・気軽な職場体験やインターンシップ、バイトも単位に ・となりの学校と合同行事、学校同士の交流会 ・他校・編入の情報を共有・開示、中学へのPR
空き教室 を開く	・空き教室を地域との交流の場・オフィス・カフェに ・休み時間に空き教室を使わせてほしい ・誰もが使える自由スペース、長くいられる場所 ・夕方以降に使われていない自治会館などを活用 ・校内カフェ、音楽室でカラオケ大会	部活動	・部活動は別の高校でも選べるように ・複数校合同のクラブ、社会人クラブとチームを組む ・地域で部活を教える人材や外部コーチを充実 ・立ち上げ要件をゆるく、部活＋同好会の2軸
地域と つながる	・地域に開いた学校、朽木に山村型の高校を ・地域の人也能参加できる行事、毎月文化祭 ・高校生が地域で活躍するイベント、自分たちで祭り ・地域の人とものづくり、一次産業を体験する授業 ・おじいちゃん・おばあちゃんが話を聞いてくれる	校則・ 学校の 雰囲気	・校則を民主主義に、見直す・なくしてみる ・制服でも私服でも、髪型・髪色も自由に ・1クラスの人数を減らし、1人1人を大切に ・個性を出しつつ個を分断しない ・あたり前を問い直す探究、未来を語る時間、哲学
		遊び心 アイデア	・日本最大の〇〇パーク、ドッグランとねこカフェ ・授業中にお散歩、体育館の壁をなくす

第3ラウンド：アイデアを束ねて、テーブルごとに発表

中心にしたいアイデアを選んでまとめ、テーブルごとに「こんな高校」として発表しました

Aテーブル 周りに遊べる場所・居場所がある高校

空き時間・空き施設を地域に開く

空き教室や平日昼間の空いている時間・場所を、地域との交流やカラオケ・カフェの場に

駅周辺・移動販売でにぎわう

駅前にお店、キッチンカーや地域の飲食店による日替わりランチが学校に来る

地域で活躍できる高校生

高校生が企画する地域イベントや祭り。学校・家以外で自分を見せられる場がある

Bテーブル 生徒の主体性を尊重する学校

ユニバーシティ型高校

授業を自分で組み、先生や地域の大人と関わりながら活動を自分で決める。大学に上がったときの環境の変化に、高校のうちから少しずつ慣れていく

生徒中心の考え方がある学校

校則や授業など、生徒が必要だと思うことを取り入れる。生徒・教員・地域・県教育委員会と一緒に学校のあり方を考える

Cテーブル 社会・地域の中にある学校

特化型高校と1週間の職業体験

いろいろなジャンルの仕事を体験し、自分に合うものを見つける

社会と身近な学校

税金など社会の仕組みを学ぶ。社会に出て使わないような校則は見直す

地域の中にある学校

地域が必要としていること、残したいことを専門的に学べる学科を増やす

学びの選択が自由な学校

小中高大を通して考え、3か月ごとに先生と相談して次の学びを自分でデザインする

Dテーブル あなたは1人じゃない

誰一人あぶれない、柔軟な高校

一律の制度で「できる・できない」を決めず、「あなたはあなたのままでいい」と伝えられる柔軟な制度に。少人数を生かして一人ひとりを支える

大人に支えてもらっている実感を

不登校の子どもも含め、孤独を感じる子が報われるよう、学校だけでなく社会全体で支える

「食」を軸に、みんなが通える高校

学食・子ども食堂・地域のマルシェなど、食を通して地域とつながる

Eテーブル 「当たり前」を問い直す学校

選択肢に余白がある学校

地域・年齢・学科にとらわれない学び方。その地域らしい場所や人と過ごせる

1つの学校にとらわれない学校

途中から他の学校や学科に移ることができ、3年で卒業することにとらわれない

Fテーブル 学びを自由に選べる高校

まずは選択肢を増やす

夢を見つけるのは簡単ではないからこそ。地域の寮、通学費の無料化、交換留学、他校の授業の単位化。途中で進路を変えることもできる

「失敗学」という科目

課題の解決に向けた挑戦そのものを評価し、学びたいことを見つけるきっかけに

講評より 第2回では、通学・交通（湖西線、通学距離・時間）や情報・選択肢についての声が第1回より多く出されました。発表全体を通して、人・社会・体験、そして将来の自分と「つながる」ことの大切さが共有されました。

参加された方の声（アンケートより、一部抜粋）

Q1 今日の話し合いで、いちばん印象に残ったのはどんな話でしたか

- ・「人とのつながりを感じる」ということが、どのグループからも出されていたのではないかと思います。
- ・地域や社会とのつながりを求めた意見がたくさん出ていたのが印象的でした。また、この高校（学科）に進んだら進学先はここ、というように決まりがちだけど、もっと柔軟になるとよいという意見も印象に残っています。
- ・高校生や大学生自身が、社会や地域に対して親しみを持っていること。
- ・どの意見も前向きな意見が多く、湖西の高島の、また滋賀県全体のことを話し合えた。
- ・高校は教育だけでなく、地域雇用、文化交流の場でもあるので、地域の活性化の低下をしてはいけない。
- ・高校生が学校以外で「気軽に居られる場所」を望んでいること。
- ・学生の方はJRで困っている。選択肢（高校も卒業後も）が少ない。高校生らしく過ごせる場（集まる場所）が少ない。文武両道を言われるのはしんどい人もいる。
- ・1度決めた進路を何度でも変えられるといいよね、という話。結局、やってみないと分からないことがたくさんある中で、1つの進路を決めるというのは難しいなと思った。
- ・個々の個性を大切に、生徒一人ひとりの意見を取り入れて、「行きたい」と思える学校作りを目指していくべきだと感じました。
- ・今の私は「子を持つ親」目線でアイデアを出していたので、現役高校生の声はすべて印象的でした。夢ってたしかに決められなかったよなあとか、バス通学って不便だよなあとか、いろいろ思い出しました。
- ・高校生の生の声を聞いて良かったです。時代が変わっても、世代として抱える悩みや課題の本質は変わらないのだなと実感しました。
- ・学校に行くのがしんどい子、より深い学びを求める子、好きや青春を追いたい子など多種多様でした。今の高校生は大人と子どもの間にいて、いろんなことを考え、遊びも居場所も学びも大切にしていると。導いてくれる大人と、自分を表現できる環境を大切にしたいというのが印象にのこりました。

Q2 今日、伝えきれなかったことはありますか

- ・「失敗してもよい学校」。失敗ができる、失敗しても次、次とチャンスがある、大きく受け入れられる学校でありたいと考えます。
- ・人生は長い。3年スパンで決める進路に疑問は感じつつ、ゆるやかに機会が生まれる環境があると良いと感じました。
- ・一人で苦しんでいる高校生は数知れないほどいる。学校に行きづらい、で終わらせないことが大切
- ・不登校の子どもの行き場。休学と復学など。子どもがゆくり選択して進める仕組み。
- ・通学することがしんどい学生も多いので、（県立の）通信制の学校を増やすことも大事だと思います。
- ・地域とつながる学校はいい考えですが、現在、高島市を出て他の市町に通学する生徒がいる現状があります。また、いろいろな課題解決のために、教員の負担（数の少なさ）があると思います。
- ・専門高校を充実すべき。社会に出てすぐに即戦力になる学生の育成。40人学級の見直し。再チャレンジをしやすい。
- ・「子どもの数が減るから110クラス減らす」は、逆にチャンスととらえて「1クラスの子どもの数を減らして1人1人を大切に学校づくり」に転換することが必要です。
- ・会場は変わっても、今回は「高島で」という視点で、他地域の方の視点や意見がきけたらよかったと思う。県内でも地域によって課題は違うから。
- ・いろんなアイデアが出たけど、「できない」アイデアはなかったし、すでにやっている学校あるよねと思いました。

Q3 今後、こんなことを話し合ってほしいというテーマはありますか

- ・高校生の意見や思いを聞ける機会を。
- ・不登校の生徒の進学（中学→高校、高校→大学）
- ・学校の先生や学校運営側としての思いや考え方、困っていること。
- ・つながるためには？ 方策等を考える時間を持ちたかったです。
- ・多様性を認めるための工夫や、誰も取り残さない教育には何が必要か。
- ・困窮世帯へのサポート。家庭状況がしんどい生徒に対するサポート。
- ・高島の少人数学級の導入など。
- ・どのようにして教育予算を増やすのか。
- ・高校再編はやむをえないが、地域バランスを考慮、地域とのつながり。意見交換会の開催。
- ・高校合併をする判断基準を明確化して、議論を進めてほしい。
- ・部活や空き教室、通学方法など、テーマを絞ったトーク。
- ・「学校」がなぜあるのか。
- ・学び以外の学校の過ごし方、部活、バイト、地域とのつながり。
- ・高校生にどんなことを学んでほしいか。
- ・みなさんの高校生活の話を聞きたかったです。



会場の様子